

社会への参画意識を高める

府中町立府中北小学校 校長名：尾久葉 則子【施設泊】広島市似島臨海少年自然の家

防災教育と体験活動の結びつき

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

府中北小学校では、日常の学校生活において、周囲の友だちや異なる学年の児童と関わることを通して、ソーシャルスキルを身に付けるとともに、自分や他者を大切にする心を育もうとしています。

今回の体験活動では、日常で身に付けているソーシャルスキルを実際に活用するとともに、他者を捉える視点として、家族や友だちといった直接関係のある人だけでなく、地域の人々まで対象を広げて他者を大切にする心を育てることで、社会への参画意識を育成しようとしてしました。また、事前・事中・事後の学習を関連付けて、体験での学びを児童一人一人に振り返らせ、次の活動の計画を子供たち自身が考えることで、児童の主体的な活動とするようにしました。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目的

- 自然に浸る体験を通して、情操を培い、自然を愛する心情を育てる。
- 自分たちで考え、計画・実践する活動を通して、自主的な態度を育てる。
- 寝食を共にする生活を通して、望ましい集団生活や互いを思いやる大切さを学ばせ、ふれあいを深める。
- 夜間の避難訓練や炊き出し体験をすることを通して、災害時の行動について考えを深める。

(2) 「自ら育つ野外活動～自主・協力・友情・命～」 3泊4日体験活動の主な内容

	午前	午後	夜
1日目	オリエンテーション	海洋学習事前学習 箸・コップ作り	夜の避難訓練
2日目	海洋学習	似島遺構巡り 野外炊飯（防災学習）	ロープワーク・食器づくり 家族へのメッセージ
3日目	野外炊飯（防災学習） バームクーヘンづくり	海水プールでの遊泳	キャンプファイヤー
4日目	野外炊飯（防災学習）	帰校式	

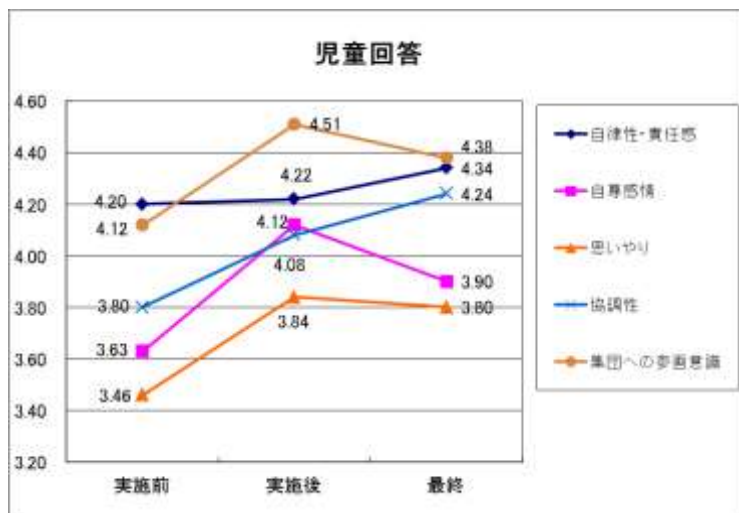


3 体験活動の指導の工夫

	日常的な活動	体験活動当日	事後学習
	ピアサポート 総合的な学習の時間 特別活動	防災教育を取り入れた 山・海・島体験活動	体験活動後の取組 避難所宿泊体験 非常時炊き出し訓練 命を守る防災フェスタ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーシャルスキルの育成を目指し、ピアサポート活動で継続してスキルを活用していく。 ○同クラス・同学年の集団だけでなく、異年齢集団にまで視野を拡大させて他者を捉え、大切にしようとする心の育成を目指す。 ○自他の命を守るために、自分たちにできることを考え実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアサポート活動で育ったソーシャルスキルを体験活動で活用し、実践力を高めることを目指す。 ○自分たちで考え、計画・実践する活動を通して、自主的な態度を育てる。 ○社会の一員であることへの自覚と役割を果たす意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアサポート活動や山・海島体験活動で育った資質・能力の確実な定着を目指す。 ○体験活動で高めたソーシャルスキルの実践力を、地域の方とのかかわりの中で発揮させるとともに、多様な他者を大切にしようとする心の定着を目指す。 ○社会や集団へ積極的に参画し協働しようとする態度を養う。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアサポート ○総合的な学習の時間や特別活動における防災の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○夜の避難訓練 ○非常時の食事づくり ○ロープワーク ○非常時の食器づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校が避難所になった時の防災避難所宿泊体験会 ○地域住民との避難訓練 ○非常時の炊き出し体験 ○学びの発信
指導のポイントや工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の取組を充実させるために、学校教育目標、学年・学級目標と児童の実態に応じた個々の目標を関連させ設定させる。 ○特別活動における学校行事の見通しを児童とともに共有し、活動内容の設定に参画させる。 ○各教科等を関連させたパフォーマンス課題を児童と共に設定し、学びの必然性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○寝食を共にする活動や簡単な野外炊飯等を繰り返して行うことで、児童自らに気づかせよりよい活動へと発展させる。 ○自分たちが設定したためあてを達成させたり各教科等を関連させた課題を解決したりするために、実行委員会を立ち上げ、計画を立て、体験活動へとつなげる。 ○設定したパフォーマンス課題を継続して意識させ、体験活動をしたり活動を振り返らせたりすることで、達成感や自己有用感を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「山・海・島」体験活動で見つけた課題を解決するために、さらなる体験活動を計画し、繰り返し実行させる。 ○地域の専門家を講師に招き、体験活動の価値付けを行ったり、新たな知識を獲得したりさせる。 ○ピア学年・保護者・地域の方等に学びを発信する場を設定し、ふれあう中で、自分たちが学んできたことよさを実感させたり今後の学習への意欲を持たせたりする。

4 取組による成果

(1) データによる児童の変容



- 児童回答のアンケートが、県平均よりも高い数値で推移しています。全てのアンケート項目において実施前に比べ1か月後の数値が高くなっています。特に「集団への参画意識」に関する項目は、実施前と最終（体験活動1か月後）を比較すると0.31ポイント向上し、全ての項目の中で最も高い数値を示しています。

(2) 防災教育を取り入れた「山・海・島」体験活動における感想

- 宿泊活動をしている時は、夜間に災害が起きた時の場合に備えて、夜の避難訓練を行いました。予定をしていた日の夕食の時間に大雨が降りました。雨は何とかやんだものの、こい霧が立ち込めるなかでの活動になりました。雨上がりだったので地面がぬかるんでいて、自分たちが思っていた以上に、大変でした。「うわあ、暗くて前が見えんよ。ライトをつけてみようよ」、「えっ、前が真っ白、霧で前が全く見えない。」夜は、ライトがないと前にも進むことができない体験を通して、私は、小さい子やお年寄りだと、もっと大変じゃないかなと思いました。
- 体験を通して、社会科で学習した「公助・共助・自助」のことを思い出して、自分たちだけのことを考えるのではなく、家族や地域の方のことを考えることが大事ではないかと考えました。

(3) 防災フェスタでの児童の感想

- 日本が地震大国だということや広島県に土砂災害危険区域がたくさんあることを、まだまだ伝えていき、いざという時のためにみんな備えをしてほしいと思いました。私は、伝えるだけでなく、自分で実際に取り組んで広げていきたいです。
- たくさん体験して学んだことをまとめてフェスタで伝えたことで、最初よりもっともっと「みんなで命を守りたい！助け合いたい！」という気持ちが強くなってきました。